



クラブ・

サークル

訪問

第2回

剣道部

芸大生たちは、創作・演奏に研鑽を積む一方で

さまざまなクラブ、サークルに属している。

「明るく」「楽しく」「美しく」活動する。

東京芸大の部活”を紹介する。

自由でさまざまなつながり

前島安奈

現在学生部員十数名。内訳、合宿隊三十名以上、試合要員約五名、飲み部員二十数名、稽古参加者数知れず。

芸大剣道部は、学部生、院生だけでなく、OB・OG、体育の授業での剣道選択者、他道場の剣士の活動によって成り立っている。所属の学科もさまざまで、音楽学部も美術学部も入り乱れて交流中。顧問は剣道七段、心身ともにピクナな高橋亨先生だ。卒業生はちよくちよく顔を出すの



秋田県男鹿への夏季合宿のときに催された「ふれあい交流ワークショップ」
地元の子どもたちとの芸術をとおした交流イベントである。2004年、2005年



OBも積極的に参加して行われる体育館(上野)での定期練習。

で、個人的に一緒に企画の仕事をしたりするほど、関係は深い。

ここ数年剣道部でお熱いのは合宿だ。毎年秋田県の男鹿半島に行き、剣道だけでなく、地元の小・中学生の参加を募って美術と音楽のワークショップを開催したり、展示とコンサートを行ったりする。この合宿は十年計画で、二〇〇七年秋田県で開催される国体に向け盛り上げていこうという企画から始まり、今年で九年目になる。男鹿市と剣道連盟と剣道部の三本柱ですむため、関わる人も多く、不思議なつながりの人々も参加するので、今や誰が実際学生であるのか本人たちにもよくわかっていない。当然剣道も参加者の幅は広く、各地の大学生もいれば地元の道場の小学生もいる。楽な条件もあるとはいえずわりと過酷な状況の合宿は、結構私達の経験値をあげてくれる。

夏にはTシャツをつくり、藝祭ではやきとりと広島風お好み焼きの店を出店する。イベントしかやらないのかともいきや、五美戦や四芸祭などの試合でも、本番になればそれなりにノリノリになる。高校まで剣道部だった人も大学から始めた人も、負けた時の陰湿なほどの悔しがりようたらない。

代々からのこの部の性根なのか、自由人を多数受けつけるようで、現在の参加の仕方もしさまさまならば、将来の排出の仕方もさまさまで、部のありかたもしさまさまなのだ。世を相対的に見たときにしみじみ思う。剣道部よ、未永くあれ。

(まえじま・あんな / 美術学部先端芸術表現科三年)